

大平衆院議員
文科委で追及

研究資料に1054カ所の誤り ズサン 呉市教委の教科書採択 保護者、市民の信頼を損なう



文部科学委員会で質問する大平喜信衆院議員

採択の経過も含め情報公開を

日本共産党の大平喜信衆院議員（比例・中国）は3月9日、衆院文部科学委員会で、広島県の吳市教委での市立中学校の社会科教科書（歴史、公民）採択問題を取り上げ、「きわめて無責任、ズサンなやり方。採択への信頼が揺らぐ」とただしました。馳浩文科大臣は「市教委は説明責任を果たすべき」と答弁しました。以下質問の大要を紹介します。

「市教委は説明責任を果たすべき」

——馳浩文科大臣が答弁

○大平議員 私の地元・広島県吳市で、市立中学校が来年度から使う歴史、公民の教科書の選定時に使われた資料に誤りがあることが、市民有志の方が公文書公開請求で入手した資料を調べるなかで発見されました。概要を説明してください。

○小松政府参考人 歴史、公民の教科書の選定ということですが、3月3日に臨時の教育委員会が開催され、研究資料全体で計1054カ所の誤りがあったことが報告されたと聞いています。

○大平議員 2月27日の会見では数カ所の誤記、点検ミスと言つていたのが、全容を調べると何と1054カ所もの誤りがあつたとのこと。

住民に採択の結果や理由について十分な説明責任を果たすことが必要だと考えています。平成26年度の教科書採択にあたり、教育委員会の議事録を公表しているのは全体の約42%、選定委員会の議事録は、約30%に当たる211市町村。調査資料の公表は、約36%の613市町村にとどまっています。

○大平議員 呉市教委のやり方は、保護者や市民の理解が得られない。教科書採択の信頼も揺らぐと考えるが大臣の所見を。

○馳文科大臣 研究資料に多数の誤りがあつたことは、率直に申し上げて望ましいものではない。保護者や地域住民に教科書採択に不信感を抱かせたのであれば、市教委において説明責任を果たすべき。再発防止に向けて、体制等について見直していただくことが重要だと考えていま

驚きです。教科書採択が、どう審議されているのかわからないのでは、教育行政に対する信頼を損なう。採択に係る議事録などが公表されるべきだと思うがいかがか。

動画をご覧ください→



日本共産党